

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成26年4月3日(2014.4.3)

【公開番号】特開2012-189440(P2012-189440A)

【公開日】平成24年10月4日(2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報2012-040

【出願番号】特願2011-53019(P2011-53019)

【国際特許分類】

G 01 J 3/02 (2006.01)

G 01 J 3/36 (2006.01)

【F I】

G 01 J 3/02 C

G 01 J 3/36

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

このスペクトル303の遮断波長 f_{cut} 以下の成分に対して内挿処理を行なうことでの迷光成分を示す特性情報304を取得する。さらに、この取得した特性情報304に対して外挿処理を行なうことで、遮断波長 f_{cut} より長い波長範囲までの迷光スペクトル(迷光パターン)305が取得される。このとき、測定スペクトル301が測定された際に、同時に測定された信号強度 D_0 を用いて規格化が行なわれてもよい。このように迷光スペクトル(迷光パターンの各成分の振幅を規格化振幅(0~1の範囲内の値をとる)とすることで、通常測定における補正処理をより簡素化できる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

続いて、ステップS120~S126に示す迷光パターンの算出処理が実行される。すなわち、ステップS102において取得された測定スペクトルからステップS112において取得された測定スペクトル(ダークスペクトル)を減算する(ステップS120)。なお、この減算処理は、対応する各波長について2つの成分の間で引き算がそれぞれ実行される。

【手続補正3】

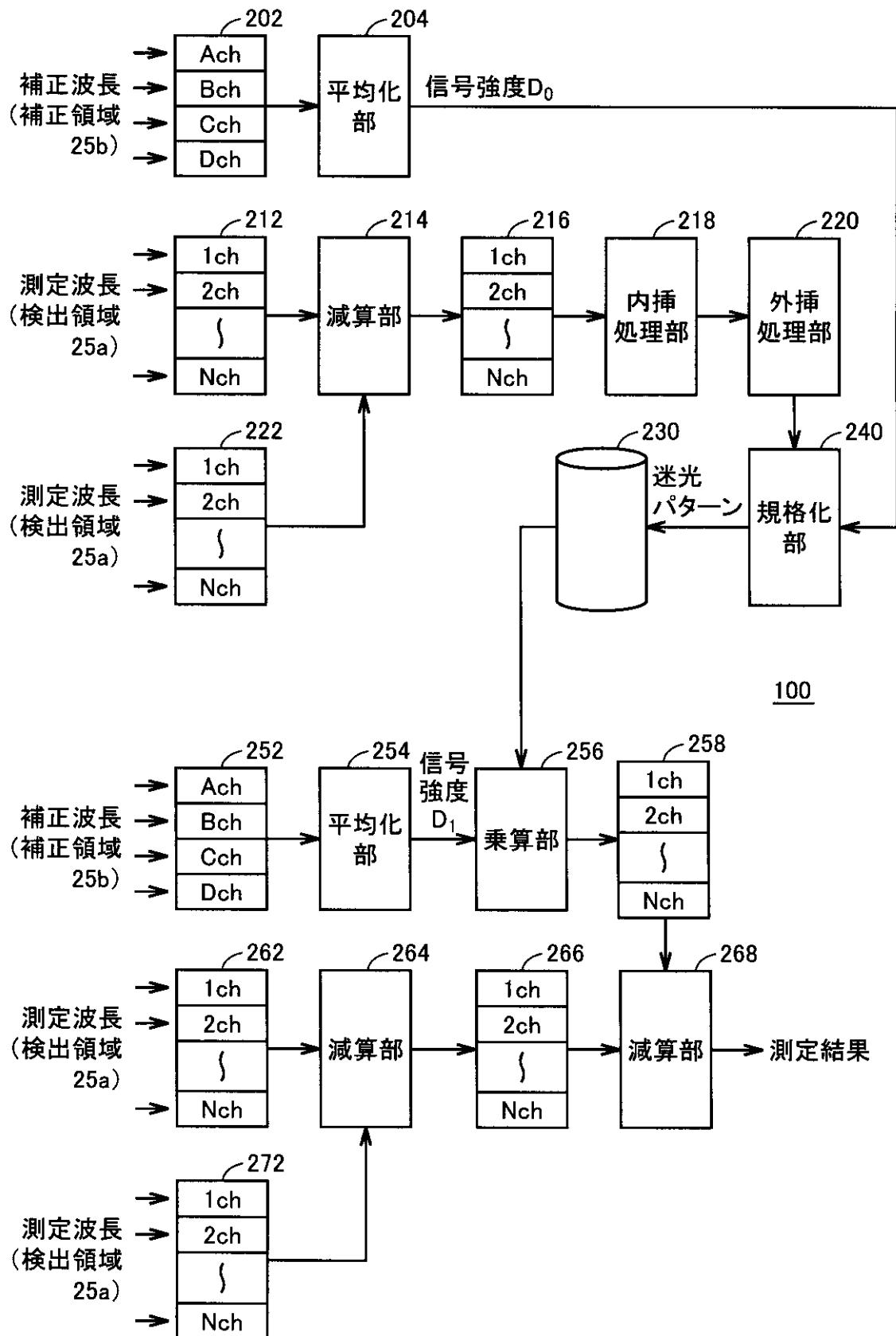
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】



【手続補正 4】

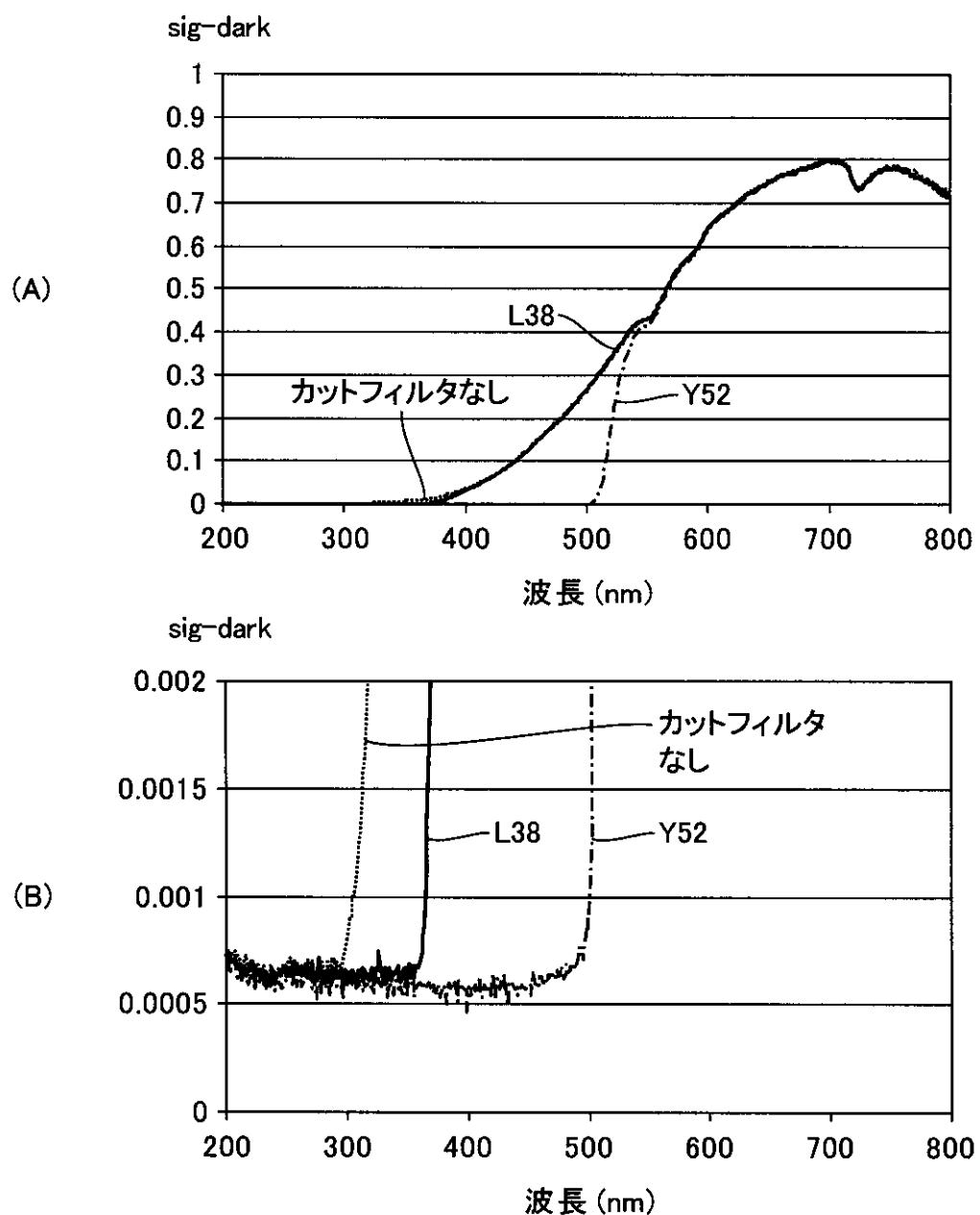
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 14】

100°C

【手続補正 5】

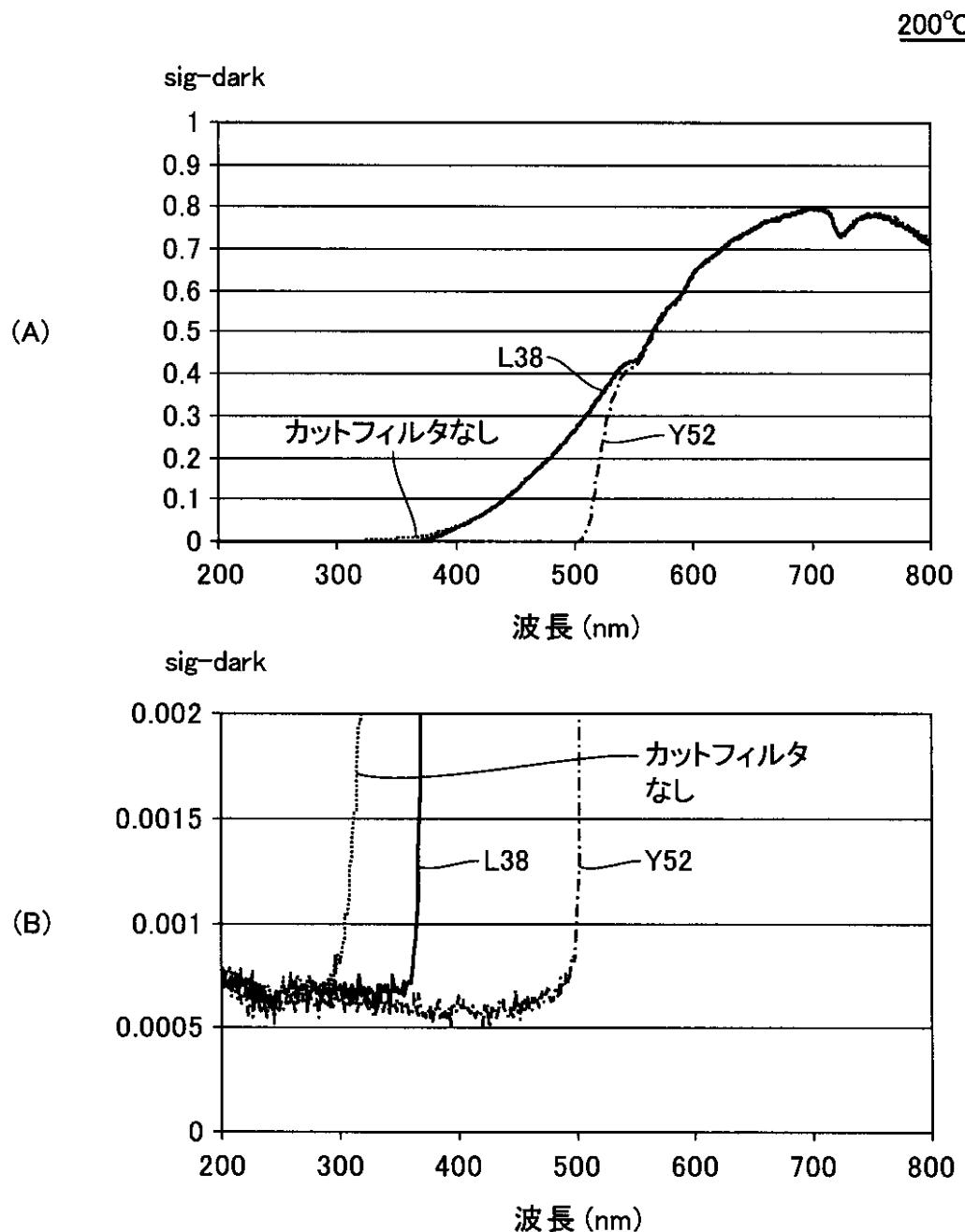
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 15

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 15】



【手続補正 6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 16】

